

金融に関連する能力とパーソナリティが 詐欺被害リスクと詐欺脆弱性に与える影響

佐々木 美加



文部科学大臣認定 共同利用・共同研究拠点

関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構

The Research Institute for Socionetwork Strategies,
Kansai University

Joint Usage / Research Center, MEXT, Japan

Suita, Osaka, 564-8680, Japan

URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/riss/index.html>

e-mail: riss@ml.kandai.jp

tel. 06-6368-1228

fax. 06-6330-3304

金融に関連する能力とパーソナリティが 詐欺被害リスクと詐欺脆弱性に与える影響

佐々木 美加¹

概要

本研究では、調査によって詐欺被害リスクおよび詐欺脆弱性を抑制する要因を検討する。研究の結果、詐欺リスクに対しては、手数料に関する金融心理尺度が抑制要因であり、逆に経済状況考慮とハイリスク・ハイリターン志向の金融心理尺度、及びリスクマネジメントは詐欺リスクを促進していた。詐欺脆弱性に対しては、個人的能力欠如と詐欺への恐怖感情が詐欺脆弱性を抑制し、経済状況考慮とリスクマネジメントが促進していた。詐欺脆弱性には恐怖コミュニケーションが関与していたが、詐欺被害リスクには有意な関係が見られず、心理的メカニズムの違いが明らかになった。

キーワード：詐欺被害リスク、詐欺脆弱性、恐怖コミュニケーション、金融関連パーソナリティ、金融知識、リスクマネジメント

¹ 明治大学教授・関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構研究員

The Effects of Financial Competence and Personality on Fraud Risks and Vulnerability to Fraud

Mika Sasaki²

Abstract

This study was designed to clarify the factors that inhibit fraud risks and vulnerability to fraud. Our survey revealed that considering fees, which is a subscale of financial personality scale, inhibited fraud risk. Risk management and other personality subscales, considering economic conditions, and seeking high risk-high return were found to facilitate fraud risks. Regarding vulnerability to fraud, the data revealed that fear-arousing and another personality subscale, shortage of financial knowledge, inhibited vulnerability, and that considering economic conditions and risk management facilitated vulnerability to fraud. We found that the fear-arousing communication was not present in the processes of fraud risks but in that of vulnerability to fraud; the survey suggested these had quite different psychological processes.

Keywords : fraud risk, vulnerability to fraud, fear-arousing communication, personality related finance, financial knowledge, risk management

² Professor, School of Commerce, Meiji University
Researcher, The Research Institute for Socionetwork Strategies, Kansai University

1. はじめに

本研究は、詐欺への脆弱性や詐欺被害リスクの心理学的メカニズムを明らかにすることを目的としている。特殊詐欺や投資詐欺において心理的影響が関与することが指摘されており（福原、2017）、詐欺脆弱性がなぜ心理的に高められるのか、詐欺リスクが高まるのはどのような心理的メカニズムなのかを解明することは、ひいては特殊詐欺や投資詐欺の対策の糸口となる可能性がある。そこで本研究では、詐欺脆弱性と詐欺被害リスクに影響を与える心理的要因を確認するため、調査を行った。

調査では³⁴、詐欺脆弱性および詐欺被害リスクに影響を与える要因として、恐怖感情、パーソナリティ、リスクマネジメント、金融知識を想定した。恐怖感情については、相手を説得する場面で、効果的に機能することが確認され、恐怖コミュニケーションと呼ばれ（深田、1973; 1975）、特殊詐欺と関連していると考えられている。佐々木(2019)は、詐欺の恐怖が喚起される絵画刺激を用い、絵画から生じる恐怖感情を測定し、これが詐欺脆弱性を抑制することを実験的に明らかにしている。そこで本調査でも、この恐怖感情を検討する。

また、金融行動の研究では、普段からリスクマネジメントを高いレベルで行っていれば、被害への備えが高まることから（梯上ら、2003）、リスクマネジメントの高さは詐欺被害リスクを抑制する要因であると予想される。本研究では、高坂（2018）のリスクマネジメント尺度を用いて詐欺被害リスクとの関連を検討する。さらに、最近の研究で個人金融の研究において、金融への知識が豊富であると自信過剰になり、危険金融行動を促進することが知られている（小川・川村・本西・森、2018）。従って、詐欺脆弱性を促進する要因として金融知識が想定される。本研究では、北村・中嶋(2016)の「金融に関する問題」を用いて検証を行った。

従って本調査では、詐欺関連絵画から生じる恐怖感情、パーソナリティ、リスクマネジメント、金融知識が、詐欺脆弱性および詐欺被害リスクに与える影響を検討する。尚、パーソナリティに関しては、金融行動に関連するパーソナリティ尺度として、金融心理尺度（佐々木、2015）を用いた。

2. 方法

(1) 手続き

調査は、インターネット調査会社（マイボイスコム(株)）を通して、調査会社の登録者に対して行われた。参加者は社会人 556 名（内女性 288 名、年齢 30 歳～84 歳($Mear=54.67$ 歳、 $SD=13.59$))で、30 代～40 代、50 代～60 代、70 代～80 代を均等割付で参加者を配置した。参加者は、回答の前に研究の趣旨の説明を読み、研究の趣旨を理解したこと、途中で回答をやめることができることを理解した場合、回答にチェックを行い、調査内容の回答に進んだ。なお、調査内容については、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構の研究倫理審査に合格した上で行った。

(2) 要因計画

実験要因は、絵画呈示の有無であった。要因の操作は、(1)のインターネット調査の中で行った。絵画あり

³ 本研究で行った実験は、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構の 2018 年度公募研究費により行われた。

⁴ 本研究は、科学研究費補助金、基盤研究 (C) (課題番号 19K03213, 研究代表者: 佐々木美加) を受けて継続している。

条件では、「しばらく休憩して下さい」という文字が出た後、20秒間ラ・トゥールの「いかさま師」の絵が呈示された。絵画無し条件では、「しばらく休憩して下さい」という文字の後、空白画面が20秒続いた。その後、両条件の参加者は、感情測定項目、パーソナリティ測定項目、リスクマネジメント項目、金融知識項目、詐欺リスク項目、詐欺脆弱性認知項目に回答を求められた。全ての項目に回答した場合のみ、データが送信される仕組みになっていた。

(3) 質問項目

感情測定 絵画刺激の呈示後の感情測定項目4項目。小川ら(2000)の一般的感情の中の否定的感情のうち2項目と、恐怖と不安を加えたものであった(「恐ろしいと感じる」「脅威を感じる」「緊張を感じる」「不安を感じる」、7点尺度(全くそう思わない～非常にそう思う))。

詐欺被害リスク 詐欺被害リスク(福原訳、2017)に関する項目について、それぞれ指定された得点化の方法で測定した(0-13点)。(「過去1年間に無料の懸賞金に応募したことはありますか」「投資するのにより好ましいのはどちらか」など8の設問から成る。複数回答にそれぞれ得点のある項目とダミー項目が含まれている)

詐欺脆弱性 詐欺脆弱性認知(大工ら、2016)の項目を1人称に改変した4項目(「わたしが詐欺に遭うことはないだろう」「私なら詐欺だと見抜けるであろう」「わたしも詐欺被害を受けるだろう(逆転項目)」「私なら詐欺の勧誘に適切に対処できる(逆転項目)」であった。7点尺度(全くそう思わない～非常にそう思う)で測定された。

リスクマネジメント 高坂(2018)の経済的リスクマネジメント因子のうち、高齢者と若年者に共通するリスクマネジメント項目5項目であった(「子育てや老後の生活などに、どのくらいのお金が必要なのか知らない(逆転項目)」「自分が今後安定し、かつ充実した生活を送るためには、どのくらいのお金が必要なのかわかっていない」「生活が困窮した時に、どのように経済的な支援を求めれば良いか知っている」など)。7点尺度(全くそう思わない～非常にそう思う)で測定された。

金融知識 被調査者がどの程度金融に関する知識を持っているかを測定するため、北村・中嶋(2016)の「金融に関する問題」を用いた。質問1「普通預金に100万円の金利が年率20%とすると、5年後の口座残高はどうか」などの5つの設問で構成されており、各設問正解に1点が与えられた。これら5設問の合計点を金融知識の得点とした(0点～5点)。

金融心理尺度 被調査者の金融に関するパーソナリティを測定するため、金融心理尺度(佐々木、2015)を用い、金融リスク認知、個人的・社会的要因、投資態度を測定する金融心理尺度得点を測定した(全く当てはまらない～非常に当てはまる、6点尺度)。金融に対する認知・態度と、詐欺リスクおよび詐欺脆弱性との関連を検討する。

3. 結果と考察

(1) 絵画の感情喚起効果

絵画の感情喚起効果を検討するため、絵画刺激の有無を独立変数とし、感情測定項目($\alpha=.876$)を従属変数として分散分析を行った。その結果、絵画あり条件の方が絵画無し条件よりも恐怖感情が強く喚起されていた($M=4.02$ and 3.83 , $F(1, 554)=5.47$, $p<.05$)。

また、絵画の有無を独立変数とし、詐欺脆弱性認知を従属変数として分散分析を行った結果、絵画あり条件の方が、絵画無し条件よりも詐欺脆弱性認知が低くなっていた($M=4.00$ and 4.21 , $F(1, 554)=6.05$, $p<.05$)。

(2) 詐欺脆弱性認知および詐欺被害リスクに至る心理過程

詐欺脆弱性および詐欺被害リスクをそれぞれ目的変数とし、参加者の年齢、恐怖感情、参加者のリスクマネジメント、参加者の金融知識、金融心理尺度得点を説明変数として、重回帰分析を行った（表1参照）。

表 1. 詐欺脆弱性認知および詐欺被害リスクに関する重回帰分析表

		詐欺脆弱性認知	詐欺被害リスク
	年齢	.146**	.004
	恐怖感情	-.178***	.000
	金融知識	.036	.184***
	リスクマネジメント	.144**	.057
金融心理尺度	手数料懸念	.094	-.141*
	統制不能感	-.099	.055
	損失不安	.007	.046
	経済状況考慮	.113	.170*
	個人的能力欠如	-.120+	-.054
	金融情報考慮	.039	.023
	安全性・確実性志向	-.015	-.020
	ハイリスク・ハイリターン志向	-.018	.184***
	信憑性依拠	-.013	.040
	コスト重視志向	-.018	-.065
	R^2	.136	.112
	F	7.242***	5.976***

(2)-1 **詐欺脆弱性認知の促進・抑制要因** 詐欺脆弱性認知を抑制していたのは、「恐怖感情」および金融心理尺度の「個人的能力欠如」の2要因であった。恐怖感情の影響は、恐怖コミュニケーションによって、詐欺の恐ろしさがプライミングされ、「自分は詐欺に遭わないに違いない」という詐欺への脆弱性が弱められたと考えられる。これは、佐々木(2019)の詐欺脆弱性の認知過程の研究でも示されている。他方、個人的能力欠如が詐欺脆弱性を抑制するのは、パーソナリティとして自らが投資や金融行動を行う上で能力が低いと考えが強い人は、詐欺脆弱性が低くなっていたことを意味している。これは、自分自身が金融行動に関する能力

が低いと考えている人は、詐欺に対する警戒心が強くなると考えられる。一方、詐欺脆弱性を促進する要因として、年齢が見出された。年齢が高くなるほど、詐欺に自分は合わないという感覚が強くなることを意味しており、高齢者の詐欺被害者が多いことの一因と考えられる。

また、詐欺脆弱性認知の抑制要因として、リスクマネジメントが想定されたが、本調査では、梯上ら(2003)の研究結果に反する結果が見出された。即ち、リスクマネジメントは詐欺脆弱性認知を促進しており、リスクマネジメントの能力が高い人は、自分は詐欺に引っかかることはない、と思いやすいことが示されている。この過去の研究結果との不一致は、リスクマネジメントの種類に起因するかもしれない。梯上らの研究(2003)は、災害のリスクマネジメントに関するもので、同じ地域の住民に対して同様に一斉に生じる被害である。リスクマネジメントによって高められた備えによって減災という被害が減ることが考えられる。これに対し、詐欺被害の場合は、被害に遭うとそれを減じることは難しい。そのため、詐欺のリスクマネジメントは、詐欺被害に遭う前の段階で、危機意識を高めて予防することが望まれる。つまり、災害のリスクマネジメントは減災を含み、詐欺のリスクマネジメントは、防止と考えると、両者の結果が一致しない原因となったのかもしれない。

今回調査の詐欺でのリスクマネジメントは、さきほど述べた個人的能力欠如が無いと感じて詐欺脆弱性が抑制されるパターンと逆で、リスクマネジメントに長けているという自信から、詐欺の被害に遭わないという考えになりやすいのかもしれない。これらは、小川ら(2018)が指摘するように、金融の知識が高いと自信過剰になり、危険金融行動をとりやすいという行動パターンと類似している。しかし、測定された金融知識と詐欺脆弱性認知の有意な促進効果は見られなかった。

(2)-2 **詐欺被害リスクの促進・抑制要因** 詐欺被害リスクを抑制していたのは、金融心理尺度の「手数料懸念」の項目の得点のみであった。なぜ手数料への懸念が詐欺被害リスクを低減させるのかは、理解が難しいが、種々の手数料を気に掛けるような人は、自分も詐欺に遭うかもしれないと思いがちだといえる。これは、手数料を気がかりに思うことと、詐欺を気がかりに思って不安になり、それが詐欺のリスクを下げることになるのかもしれない。一方、詐欺被害リスクを促進する要因は、金融知識、経済状況考慮、ハイリスク・ハイリターン志向であった。金融知識が詐欺被害リスクを高めるという影響は、小川ら(2018)の指摘通り、金融行動に対して自信過剰となり、詐欺への心的構えがおろそかになるのかもしれない。経済状況考慮は、付表1・2の相関分析表によると金融知識と有意に正の相関がみられる。そのため、金融知識の高い人は経済状況を考慮しがちで、自信も強く、詐欺被害リスクが高まると考えられる。ハイリスク・ハイリターン志向の場合は、リターンを求めて高いリスクのものにも投資しようとする傾向があるため、詐欺被害リスクも高くなっていた。これら詐欺被害リスクの促進要因の共通点としては、投資に熱心で、積極的に金融の情報を取り入れ、金融の知識を駆使してリスクをいわずリターンを求めるという金融に対して積極的な行動パターンが読み取れる。

詐欺脆弱性認知と詐欺被害リスクの心理過程の違い 詐欺脆弱性認知と詐欺被害リスクは、一見似たものを測定しているように思えるが、詐欺被害リスクは、過去1年間の危険経済行為を測定しており、詐欺脆弱性認知は、どれだけ警戒心が無く、詐欺に対してナイーブかを測定している。従って、詐欺被害リスクの方は、積極的に投資を行う人にとっての詐欺リスクと考えられる。こちらは、投資詐欺などの積極的投資家における詐欺リスクを表しているのだと思われる。

他方、詐欺脆弱性の方は、詐欺に遭いたくない、という不安や詐欺の恐ろしさへの恐怖がどれだけ希薄かを測定している。特に投資やリターンに敏感でない人でも、特殊詐欺などでは、様々な物語や詐称の役割の詐欺加害者に騙されるとされている。そのような詐欺の場合は、詐欺脆弱性認知を抑制するような不安な気

持ちや能力への自信のなさがある方が、詐欺の対策につながるのかもしれない。

今回は、詐欺被害リスクと詐欺脆弱性という二つの指標を用いて、これらの抑制要因と促進要因を検討した。その結果、それぞれのリスクに影響する要因は、両者では全く異なっていた。したがって、詐欺の対策を行う場合も、パーソナリティに留意したほうがよいかもれない。積極的に投資情報を集めて、ハイリスク・ハイリターン志向を持つかどうか、リスクマネジメントも金融の能力も高くなくて詐欺への恐怖を持つかどうか、という不安や恐怖の部分が影響するといったように、それぞれのプロセスは異なっていた。

今回調査に用いた詐欺被害リスクの測度は、行動の測定であり、詐欺脆弱性の測度は、どれだけ詐欺に遭わずにいられると思うか、という認知レベルでの測定であった。いずれも特殊詐欺や投資詐欺の防止のためには重要な概念であるが、これらがそれぞれ異なる心理過程で詐欺へのリスクを高める可能性が伺えた。

今後、詐欺の対策のためには、こうした人々の、認知のレベル、行動のレベルにおいて、それぞれ人々の知識の高さ、あるいは知識の不足、自信過剰あるいは自信の不足、恐怖感情、リスク希求のパーソナリティが影響する感情や動機づけの段階を検討していかなければならないのではないだろうか。

ただし、今回、詐欺リスクと詐欺脆弱性認知の測定は、それぞれ単一の尺度でしか測定されていない。今後操作性や尺度の妥当性についてもより精度を高めていく必要があるだろう。

5. 参考文献

- Brehm, J. W. (1966). *A theory of psychological reactance*. Academic Press, New York.
- 大工泰裕・阿形亜子・釘原直樹. (2016). 被害者への共感的観察が脆弱性認知に及ぼす影響: 詐欺被害事例を用いた検討. 対人社会心理学研究, 16, 21-26.
- 深田博己. (1973). 恐怖喚起の程度, 性, 不安傾向が態度変容. 実験社会心理学研究, 13(1), 40-54.
- 深田博己. (1975). 恐怖喚起と説得. 実験社会心理学研究, 15(1), 12-24.
- 福原敏恭(2017). 行動経済学を応用した消費者詐欺被害の予防に関する一考察. 金融広報中央委員会
- 梯上紘史・菊池輝・藤井聡・北村隆一. (2003). 防災行政と自主的防災行動に対する京都市民の重要性認知分析. 土木計画学研究・論文集, 20, 337-344.
- 木村真利子・西田公昭(2018). 金融機関における特殊詐欺対策に関する心理学的検討(3) 日本社会心理学会第59回大会発表論文集, 290.
- 北村智紀・中嶋邦夫. (2016). 終身年金バイアスと公的年金満足度・金融資産保有への態度. 日本経済研究, 73, 1-30.
- 高坂康雅. (2018). 大学生における心理的自立と経済的自立・社会観との関連. 和光大学現代人間学部紀要, 11, 123-134.
- 小川一仁・川村哲也・本西泰三・森智晴.(2018). 行動経済学的要因と金融教育は人々の金融行動に影響しているか?. 法と経済学会 2018年度(第16回)全国大会講演報告発表資料. 2018年7月15日 関西大学.
- 小川時洋・門地里絵・菊谷麻美・鈴木直人. (2000). 一般感情尺度の作成. 心理学研究, 71(3), 241-246.
- 佐々木美加.(2015). 金融商品の認知と投資行動に関する心理学的研究. 明治大学人文科学研究紀要, 77, 37-83.
- 佐々木美加.(2019). 詐欺脆弱性に対する絵画の影響. 日本認知科学会第36回大会発表論文集, 455-458.

付表1. 詐欺脆弱性認知と説明変数の相関関係

詐欺脆弱性認知	年齢	恐怖・脅威	金融知識	リスクマネジメント	手数料懸念	統制不能感	損失不安	経済状況考慮	個人的能力欠如	金融情報考慮	安全性・確実性志向	ハイリスク・ハイリターン志向	信憑性依拠	
詐欺脆弱性認知	1													
年齢	.247**	1												
恐怖・脅威	-.236**	-.180**	1											
金融知識	.151**	.134**	-0.073	1										
リスクマネジメント	.284**	.317**	-.186**	.313**	1									
手数料懸念	-0.005	0.063	.147**	0.037	-.083*	1								
統制不能感	-0.055	0.054	.092*	.132**	-.130**	.750**	1							
損失不安	-0.064	0.052	.109*	-.106*	-.210**	.792**	.753**	1						
経済状況考慮	0.064	.109*	0.081	.243**	0.027	.574**	.616**	.514**	1					
個人的能力欠如	-.149**	-0.018	.128**	-.216**	-.349**	.535**	.601**	.646**	.527**	1				
金融情報考慮	0.054	0.029	0.075	.084*	0.032	.377**	.345**	.301**	.691**	.383**	1			
安全性・確実性志向	-0.043	0.051	0.037	0.071	-0.072	.464**	.499**	.566**	.457**	.486**	.255**	1		
ハイリスク・ハイリターン志向	0.009	-0.041	.097*	.164**	.099*	0.004	0.000	-.117**	.146**	-.119**	.269**	0.027	1	
信憑性依拠	-.083*	-.086*	0.082	-0.021	-.115**	.331**	.365**	.414**	.369**	.417**	.306**	.715**	.270**	1
コスト重視志向	-0.014	-0.055	0.072	.267**	0.042	.397**	.443**	.314**	.517**	.282**	.387**	.705**	.384**	.678**

付表 2. 詐欺被害リスクと説明変数との相関関係

	詐欺脆弱性 認知	年齢	恐怖・ 脅威	金融 知識	リスク マネジ メント	手数料 懸念	統制不 能感	損失不 安	経済状 況考慮	個人的 能力 欠如	金融情 報考慮	安全性・ 確実性 志向	ハイリ スク・ ハイリ ターン 志向	信憑性 依拠
詐欺被害リスク	1													
年齢	.054	1												
恐怖感情	-.011	-.180**	1											
金融知識	.265**	.134**	-.073	1										
リスクマネジメント	.147**	.317**	-.186**	.313**	1									
手数料懸念	-.006	.063	.147**	.037	-.083*	1								
統制不能感	.056	.054	.092*	.132**	-.130**	.750**	1							
損失不安	-.034	.052	.109*	-.106*	-.210**	.792**	.753**	1						
経済状況考慮	.179**	.109*	.081	.243**	.027	.574**	.616**	.514**	1					
個人的能力欠如	-.062	-.018	.128**	-.216**	-.349**	.535**	.601**	.646**	.527**	1				
金融情報考慮	.148**	.029	.075	.084*	.032	.377**	.345**	.301**	.691**	.383**	1			
安全性・確実性志向	.022	.051	.037	.071	-.072	.464**	.499**	.566**	.457**	.486**	.255**	1		
ハイリスク・ハイリ ターン志向	.237**	-.041	.097*	.164**	.099*	.004	.000	-.117**	.146**	-.119**	.269**	.027	1	
信憑性依拠	.060	-.086*	.082	-.021	-.115**	.331**	.365**	.414**	.369**	.417**	.306**	.715**	.270**	1
コスト重視志向	.134**	-.055	.072	.267**	.042	.397**	.443**	.314**	.517**	.282**	.387**	.705**	.384**	.678**